

2020年4月1日

新学期を迎えるにあたって

—学生の皆さんへ—

文学部長・大学院文学研究科長 柳原敏昭

東北大学文学部および大学院に入学・進学された皆さん、おめでとうございます。心より歓迎いたします。しかしながら、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大により、入学式の中止、授業開始の先延ばしという措置をとらざるを得なくなりました。誠に残念で、心苦しいことです。

一方、在学生の皆さんも、専修配属となる学部2年生、卒業・就職をひかえた4年生、修了をひかえた大学院前期課程2年生をはじめとして様々な不安をかかえていると思います。

目下、一番大切なことは、皆さん一人一人が新型コロナウイルスに感染しないよう最大限注意し、自らの生命と健康を守ることです。そのことが感染拡大の抑止、ひいてはウイルス禍の収束にもつながります。若者の行動が重要な鍵であることも種々の実例から明らかになっています。自ら感染しない、自ら感染を拡げないことを考えて慎重に行動していただくことを強く求めます。

その上で、授業開始までの期間を有意義に使っていただきたいと願います。どうしても自宅や下宿に籠もることが多くなります。すでに研究課題のある人は、それに取り組んでください。「積ん読」であった書物を、このさい読んでみるのもよいでしょう。オンラインで読める古典や論文もたくさんあります。勉学上のアドバイスを受けたい場合は、遠慮なく所属する研究室（専修、専攻分野）、指導教員に電子メール等で連絡をとってください。先生方は親身になって応えてくださるはずで

最後に一言。世界戦争の足音が近づく1936年10月、作家の広津和郎は、「散文精神について」と題する講演を行いました。「どんなことがあってもめげずに、忍耐強く、執念深く、みだりに悲観もせず、楽観もせず、生き通して行く精神」、それが広津の言う散文精神です。

桜が咲き誇る春を迎え、街に飛び出したい、友人と語りたい、一緒に盛り上がりたい、そういった衝動が起こるのは無理からぬことです。逆に不安に心が乱されることもあるでしょう。しかし、新型感染症の世界的拡大に直面する今は、「どんなことがあってもめげずに、忍耐強く、執念深く、みだりに悲観もせず、楽観もせず、生き通して行く」ことが肝要だと、敢えて申し上げたいと思います。